

南部古實傳記 三

リ 5
3517
5



明佛
第 3517
卷 45



麻角古无傳曰姓古花輪の内は役山高上(二)戸り
 浦(三)記大分系作て麻と較多た世は(捨)作は捨山
 高(り)と中作の嶽(り)麻角川目(足)分は作(得)と
 後(の)如く(り)経(伝)又(得)作(改)浦(記)中(足)世(川)目(切)田
 作(と)田(畑)小(江)作(と)能(取)り(し)と(免)傳(り)高(海)角(第)
 じ(稀)年(傳)う(傳)軍(内)う(切)わ(け)い(甚)は(世)村(を)軍
 立(り)作(改)世(内)と(中)作(を)ね(う)境(の)や(と)池(を)宗
 中(作)今(の)境(田)少(く)由(中)の(其)子(孫)今(象)式(部)大(町)大
 經(治)毎(平)う(り)ね(う)傳(り)同(坊)村(と)人(在)は(山)と(成)成
 三(百)町(り)との(伝)り(り)あ(ら)ま(川)筋(の)流(連)麻(角)用(り)能
 似(中)小(つ)記(麻)角(と)中(作)也

草松桂若し中作皇紀の國坂乃言り伊中
一田山村乃内平田田りだんびる長者と云ふ也
由來を元来土民しての支物つ違ふく畑耕中時
長者言寝のきく作前り鼻官よりつるのき
飛か仰ふは石乃中へ飛付作く鼻一りり
再三なり中房是と見不思議り所は内長者
目覚く泣作と哭り石忌なりと云作名酒
と音作と云ひ着ふ作と泣き是を中房中を
伊身は枝寝の内鼻官一りり飛ひ岩の下へ
飛付さふい人説し作と泣くは(是)物と具前ハ
家ふきき合作福小く可なり作とて云ふ中作ハ
泉酒より中作改象屋福とまて中作まより

順く富貴の身と云ふく世間り伊り紀篇人とな
りし血幼(食)長者號類と作而内より宜る小
多長者号皇作とす一乃寶と云ふり如(二)子とわ
れ中(伊)ありりり長者如子とわ作は中より
中如子言双乃人なり血中(二)作と作く則長
者乃乃我下作と云ふ、中作時の人だんびる
長者と中作経経り右乃むむ中中りなり方
多兒女如血自然と后り物よりりり長者春
方秋を小川と云ふと云ふりり河あり白く
流りり小並白川と中作長者死去の後后の作
小と京師乃古郷り父母為菩提伊類中と善
長年中小夏伏大日伊建立如い守言と大日

久珠菩薩不賢辨不動明王毘沙門五大尊等也
作者雲慶

一后明御爲成古卿小豆澤吉祥院爲佛位牌所
佛速立位中

一小白河より雲慶の作大日如来佛勸法云

一采白川葦原橋云拘をり其相長年川口より
の橋ともを成し可く申小く初母を成作中
相の中より拘花云橋成能らず小付右の中
耳より長年川相内傳と名付作中

右之有増信用難成説作傳在古来

説傳作説改定記

八帝太皇太后聖作記之事

一八帝を所を藤原朝管内村あり有と申又草野村の
中よりと申作来満小國山城六戸の内奥瀬村
十和田山一系作てゆがれ小食はさ着いさ作
作不法一ありり系作ていそ那三つ有とた食しい
作多風味好め能所門も経い咽、と紀中作改
ありて音作ゆき八帝を所作色は前より川
瑞鳥あり八帝を所立退治さ防り、又合中内は中
作よ成具身の形と成り、自然と地形小
成りい回道のゆがれ特より八帝を所と作作
作も小なり長年川石常り、ねとことと成り
なりはの通り葦原と斗る、八帝を所を所
乃内り大地の形り成し、ねい取所と成らしいう

りり家小くは作りぬり作成しぬいしと云
はれは又咽乾きあとの自然と地と成作は守り
妙法に故印に兒を乞ねぬいし右乃る諸部を
守妻り是るよと流しはる入右山中一より見作小
今相違大地り成りぬいぬ親に中ハ今一度人間
の形小く又流しと中り急卒の人員と流し作
之世の因果小くケ作りぬり作得思ひ功に
やうと中り力とく義人しと云と取ふ持はゆい
より其子孫義人しと云小作作は右の法十福
の法し中作又れより年月と云り 観音堂の六法
は内三戸部計ヶ町龍現寺の辺にあり作大満房
中僧一坐不死の預りしと云然中一三十三歳より法

く法小南宗坊し中生より大地り成十和国法一より
ハ師を前と追ふしと云可成り言はれぬハ師を前と
立南宗坊し喰合い前又南宗坊を經文の字いと云
ハ師を前と義の目いと云り 戦ひいと云ハ師を前と
り戦負遊かされい喰合作前亦根得しと云有之
れよりハ師を前康角部と流り可成りと云并内川実
為可中子立小く大石在平小跡中中少く年の此は有之
石湯湯小と石中も有之い廿廿男神岡中作めは男作
赤田川
と云前より記 妙法に康角部奇に楠前辺に宮
一法者合い評定はぬい世而集宮し中り楠村ト年大
夜トと云 流し法に人り法樞法にのり 為討年
り付集乃宮一法道 雲内道而小く右の年血と

名禮主後秋田成田一等下し程あり家良
皇大湯村下着則領知り

康角四拾貳口一侍四拾貳人三覺

一田山村 田山右京進領館あり後畠山三郎知り

一化比内村 化比内宗女領館あり

標系川目

一湯瀬村 湯瀬中務領名字成田流り湯瀬形部
領名字河部一戸分家館あり

一七戸村 七戸下流領名字成田館あり

一三ヶ田村 三ヶ田尾迫領名字河部館あり

一若内村 若内之部領名字成田館あり南流河名禮
下之流一戸流河名領名字成田也正友二戸置

一長年村 長年流河名領館あり一人と館あり一戸
孫傳守一戸二男名字成田長年流河名禮
康角國人旗一三戸分流河南流九郎正友
流河石名若流河時一戸と流河也

一長井村 長井但馬領名字成田館あり

一長内村 長内刑部領名字成田館あり

一白鷺村 白鷺助解由領館あり

一石名若村 石名若五郎領名字成田館あり後南流
と九郎正友と南流館あり一門康角三百丁
領り三戸と流河

一松波村 松波越前領名字成田館あり

一大湯村

大湯江村曾名字家良の忠順嫡子家良
二男家良の三男家良の右四郎家良の右五十九年
九戸又一味生捕九戸一而三道一々切後
此節兵の長兵の津經一幸人此兵の長兵也
武百石以下三男家良の二男經中二年云
此以後大湯五三信成父子石大湯小坂南
部信一門毛馬内親貞流寸

一小坂村

小坂村江馬之助信名字家良大湯江曾
二男

一小平村

小平村北而名字家良小坂村末の男

一津田村

津田十郎領名字成田信成を暮る也

一毛馬内村

毛馬内村中名字成田忠順後南部親貞
天文年中三村の遠近の知り此子石毛馬

内津田右大欠日言解亦法權相神新口
屋浦若生姓若屋澤

一瀬田右村

瀬田右右高兵衛領名字家良是後毛馬内親
大子領家来月信信成知り分野信成の
時信成は若信信成信成志方一二月信成
七百石以下

一大地村

大地高之庄領名字成田信成

一小坂村

小坂筑後領名字新元信成は是後大湯
此節信成信成

一濁川村

濁川江馬領名字新元信成

一荻川村

荻川浦中領名字成田信成

一大地村

秋守高領名字信成は是後

一 高松村

一 園神村

一 芦名法河

一 草木村

一 高利寺村

高松村を以て後領名字故田池を

園神を以て後領名字故田池を

芦名は左前名高松宗良は彼を以て
の波
田池(高松)

宗良越後領寺田宝田池故田池

高利寺は後領名字故田池を以て

草木村は後領名字故田池を以て

園神村は後領名字故田池を以て

高松村は後領名字故田池を以て

高利寺は後領名字故田池を以て

草木村は後領名字故田池を以て

園神村は後領名字故田池を以て

川に輪園白(系杉平水等一山を以て
若孫女生し中作れり人住する田池
助言而し中者と聲とれ其に輪新
所と云ふいふは師志方一而川至池と
川に白根(系高松社將も云々)

一 右回指即人の侍祐寺村山下と高下道度

内裏のを差同編荷四指三輪以下道作不四指寺村

ハ右回指即人の侍在と仰亮面々領知奉流御新

ハ右回指即人境自り楊登評定小く苦川備中の

系高領(丁)合とを西の方長根先と境村

立中作右回指寺村編荷奉祀ハ毎年いさしむ

ハ此境目の編荷奉祀官中ハ一而一時社人系楊

伊弉宜り後自三拾遺系紀をりしし争儀不座乃
也法也付れり詔く今と至四十三解の伊弉
備九月廿九日と系法に物丈に穠村志明寺首
より今と至社領五石宛以下置れり拾遺と前代
より中身作

一姓古尾馬頭源義朝の公男源九郎兼經公奥羽下
秀衡佐藤左司伊弉頼佐履之弟信四郎兼衛忠信
氏有大將小く伊弉作京^郡都の傍大里上總女
先祖花輪比布黒土丹後祖高瀬因防祖伊弉
伊弉而留良以傳小く四人在討死に因成の道場
小く引導は家来と成湯より河彌陀四解伊弉
四人下之^中奥^郡下^下京^郡比輪黒土高瀬大里

寺建立河彌陀一解宛立置菩提と吊ひ依りし
是^乃四ヶ所有り寺江^乃瑞穂とく^乃伊弉^乃穠村
是^乃寺^乃恩^乃伊弉^乃寺^乃高^乃小^乃と^乃高^乃之^乃高^乃瀬^乃村^乃の^乃ありし^乃と
也^乃王^乃伊弉^乃寺^乃り^乃高^乃と^乃黒^乃土^乃の^乃ありし^乃と^乃黒^乃土^乃穿^乃人^乃の^乃後
石^乃高^乃と^乃高^乃瀬^乃村^乃石^乃高^乃名^乃横^乃山^乃合^乃戦^乃の^乃時^乃高^乃中^乃大^乃里^乃村

河彌陀寺領文ありし
一庶角部^永録六年六月秋田城之^乃近^乃季^乃比^乃内^乃部^乃を^乃伊弉
及^乃中^乃た^乃の^乃庶^乃角^乃部^乃五^乃人^乃侍^乃と^乃系^乃法^乃領^乃文^乃と^乃中^乃
伊弉^乃及^乃伊弉^乃と^乃高^乃瀬^乃村^乃庶^乃角^乃部^乃五^乃人^乃の^乃約^乃と^乃系^乃法^乃領^乃文^乃
と^乃同^乃中^乃伊弉^乃及^乃伊弉^乃と^乃高^乃瀬^乃村^乃の^乃上^乃と^乃系^乃法^乃領^乃文^乃
小く又系法領文のり小く庶角より大湯田島
小平系法領文のり中務大里高瀬土源

舟と紙社田古多迎季の名代り大寺越前大浦邊殿
之助之仁内浦新同平屋の右田人比内領接田の
紙中の平々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
以節之系瑞水々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
紙右一腰小指指小比節一引子初いさ一紙は血堂の
りれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

秋田下田侍従迎季庶角被責作付長年
縫殿助覚書

一長年先祖一戸務津守義實と申す一戸の守
知り也庶小供郡今二戸指館鳥の海にれり京郡
庶角庄長年一遺遺作子細ハ社田後目作處

國人斗有之有為後見南朝伊豫守正右社谷内
導正庄備門一而之遊遊ハ長年と申領内ハ長年と名
宗中事一但一戸務津守四代長年縫殿助左義と申す

一長年先々社平導正右知り作而社田一守人佐す

一秋田下田侍従迎季迎季ハ河部之河部之自任厨川の
柵邊の時末子幼思りりとのめ地

夷ヶ嶋一初成人し夷ヶ嶋下國及社田可位と
と号し長後社田切地ハ社田可位と
年ノ月

有之取下國比内之部之傳利則頼於給家退治比内
上國の号可也

部より入江中右ハ傳利家也竹山流河々々々々々
取迎季結江中作事

一迎季領河仁部之長津成右馬頭初代指通弟

一迎季互理一打紙先七騎の有子入江中其上

鹿角切近可中評定し、鹿角侍(延文と延治)作其廻文より、世度味方、龍延社、光知、一信、加治、可有、之、之、今、浪、良、貝、綿、布、亦、為、音、物、也、福、越、い、永、祿、九、年、七、月、以、中、事、

一 右廻文、分加判、い、い、鹿角侍、大里、備中、花輪、為、相、模、い、中、世、三、人、と、在、保、三、人、前、と、中、作、其、外、尾、云、の、在、保、三、人、夫、小、平、大、湯、い、の、い、も、い、中、事、

一 加判、い、い、石、中、者、鹿角、龍、石、多、屋、九、節、正、友、長、年、繼、殿、助、岩、内、澤、石、乃、小、持、指、戸、馬、助、毛、馬、内、等、也、世、者、在、中、多、岩、祖、の、家、督、主、君、信、直、公、へ、對、し、逆、心、以、間、詢、し、中、合、連、判、不、以、い、い、道、季、深、為、前、中、事、

一 永祿九年九月頃、秋田、澤、由、理、七、務、危、松、前、守、護、坊、

傍、何、に、乃、計、此、比、内、繼、年、鹿角、逆、心、の、者、一、い、在、中、石、多、岩、乃、城、と、責、中、作、為、目、外、長、年、繼、殿、助、岩、内、澤、龍、城、は、就、作、得、と、も、奇、心、大、概、取、柄、な、就、い、得、也、終、り、石、多、岩、城、乃、三、百、も、長、年、城、り、龍、社、田、澤、侍、中、事、

一 永祿九年の秋、い、い、合、部、い、合、中、作、得、と、も、石、中、長、年、城、小、籠、働、作、者、繼、殿、助、一、門、と、九、節、宗、女、竊、上、年、人、孫、助、之、而、世、三、人、軍、大、將、具、外、家、来、中、彼、三、節、乃、去、賢、蜂、丹、後、時、多、と、恐、其、弁、不、動、院、秋、時、三、河、城、山、作、内、繼、殿、助、伯、父、活、九、節、氏、部、と、世、親、今、節、公、乃、小、老、武、者、小、い、い、下、知、合、一、戸、活、三、節、作、行、主、外、石、多、岩、村、長、の、村、三、ヶ、田、村、是、井、村、岩、内、村、能、侍、人、松、前、城、合、戦、合、或、時、

安保の三人飛矢一首と七年城(討討中)歌り

なりしをせよと送りしり女色にきり

あふりうきまふ尾をもゆりたり

又此歌

あふりうきまふ尾をもゆりたり

あふりうきまふ尾をもゆりたり

如斯此奇文文少く初ゆ一中事

一 追季勢大勢新身と入部、責中血世中信直公(加
勢と中上作得と若身侍田頭松尾匠宮内(方井
城切栗若川平儀具分(河乃加勢)遠合戦は得
ても奇手大勢小く若身死逃く討討は事
一 永禄十年二月末の戦後殿助伯父流九郎御外

討死は追季内松前合身甥清右衛門と海殿助討
所方と相高と惣官と軍人揚部取大ヶ蜂丹後軍大
將と九郎と始討死は又秋田流小巻八右揚杉屋山
之か討死も負之少敵味方死人血流城分西堂は
乃小川舟舟作とそと如く流作は事川と作
一 右と追又作と上は得と三戸分為加勢小及南及東
及細越及四人と遠い南及と中儀三郎と宿江は事
南儀守如宿江は小及と戸儀流信宿信細越及は内
儀乃川内宿江は事
一 同年十月五日追季家起大高主馬大將小と秋
田比内河仁松前中理藤角逆と乃侍人柱太子人
谷内(お)奇戦中城を流石中と家槍拂同十六日

し伊祿支那の如く果しく此の終り小治政し
伊治陣をこれ田の二男と首巻を子り此作の録
子三百石以下作事

一 藤角之河内運送は後継敏師は百石四石の位は高
を稗以下作事

一天正十九年辛酉九月陣あり此の時分伊中陣に
伊河内山助を南に中北に陣ありしなり此中
去年の城を横山陣小く伊治利作の是は伊のく此
不中作事

一 小治政は馬助辺まで戦津野あり作と信直公は
進平知と小治政は以下作事

一 文長十一年夏伊治西之房は伊作の進平は伊のく此

伊作は去年伊治の家来内山助を引上作時を引上
伊治の河内を引上伊治は遠い事なり去年此の城
を横山陣の時竟の城を引上引上大高境に在
藤角之馬城は城在二つの城を不中河内可治道
伊作不中河内を引上作事

一 後継敏子流九節を去六年の王官上陳の節
利直公より引上引上粟色伊馬津領は伊治作の家
中人叔信七百石和流り伊作は引上引上和治陳
此作同年岩崎伊治は引上引上此の行を引上
河内を引上引上引上引上引上引上引上引上
引上引上引上引上引上引上引上引上引上
引上引上引上引上引上引上引上引上引上
引上引上引上引上引上引上引上引上引上

日向の山に於て秋田城の跡を往來する可きと云
之を倭と稱す仍と可中或是物と云ふ事有り
目より著作之及之者其言に及る者有る今程
の編に之を念記し向後乞進して得て之を
上押澤云

元和四年

七月七日

梅澤才孝

石井修賢方札

在判

山田修夏方札

阿部重房方札

園亭判方山田右邊山口山方方々此は是の山中
書
此は在判云

此札は此の山に於て後高梨子備東之方より此
松山阿部道徳と云ふ人松山と云ふ山中阿部内法庵
去古大徳寺と云ふ所中萱籠捨馬と云ふ所也
し之は此の山に於て高梨子備東之方より此
阿部内法庵と云ふ所中萱籠捨馬と云ふ所也
梨子備東の山と云ふ所也此の山に於て高
梨子備東云

寛文四年

九月廿九日

山田右邊
山田山方
在判

高梨子備東

右邊

一山自山田山方より高梨子備東の山に於て

之儀... 達... 成... 別... 也...
元和七年

四月廿九日

園野刑部

右内左判

園野紙お紙

右内左膳紙

一... 者... 去... 中... 葉... 不... 尚...
宣文丁九年

五月廿五日

中野遠酒紙

中野遠酒紙

右内左判

之類子か江戸吉原伊勢と云ふ傳し右に編地の
山、手入江有細く伊勢と伊能中現に双方に作
行作百秋田領分と云ふ所、或は手入之社、南領分
領分と百姓荒遊山とて、近年全と坊、新と新我
領分中心と云ふ思、右に依り伊勢と江戸と、伊中
上、南領分伊勢分毛馬内苑、梅田江と百姓荒遊
百秋田領分伊勢分可以下作是

慶安三年 寅 閏十月廿二日

十二日
後 伊勢
江戸

江戸
江戸
江戸
江戸

伊勢の御様

右伊勢書

表書と通目安物と作百秋田領分書と云ふ所、可
遊野史に述来、去可為御、伊勢也

二月二日

伊勢伊勢
太京伊勢

毛馬内
苑梅 百秋田領分

同南領分返答と貴

秋田領分、通目安物、通目安物、通目安物、通目安物、
一秋田領分、通目安物、通目安物、通目安物、通目安物、
金山と、通目安物、通目安物、通目安物、通目安物、
高梨、通目安物、通目安物、通目安物、通目安物、
通目安物、通目安物、通目安物、通目安物、通目安物、

世方(江)中 饒按盤固之 城隍已之時 隍夫中 付何角と
沙公儀 輝、存右之 小屋 門中 中事

一 元年 卯年 切交丹 沙身 鑿之 事 付上之 中 作通
山方 一 取 回 方 中 雙 方 後 自 山 入 五 流 之 事 上 山 中
穿 鑿 之 可 紅 白 流 街 公 儀 操 鈔 山 作 付 山 之 通 而 穿
鑿 之 事 約 紅 白 流 月 十 四 日 之 查 山 中 合 五 流 可 紅
十 二 日 通 之 中 産 之 而 十 三 日 之 事 乃 山 地 村 中
流 之 通 而 之 何 者 在 不 知 回 百 人 斗 之 事 切 交 丹 流 之
之 事 之 事 可 以 之 事 乃 流 南 流 道 之 事 乃 之 事 之 事
大地 村 之 事 乃 中 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
の 武 切 交 丹 山 流 之 何 者 不 高 之 事 乃 細 之 事 乃 大地
村 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事

之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
回 流 之 給 人 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
人 斗 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
中 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
三 人 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
者 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
中 合 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
可 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事
上 之 事

一 右 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事 乃 之 事

出仕の内、御公儀様上御法中上度山崎身家
在在に相成御法中上御法在在に相成御法中上御法
迄延引候幸秋田御領山崎御領中上御法
境自江守正分可江下山崎身家大膳在在に相成
中分守御法自石御法中御法中分守御法
中事、御法御法在在に相成御法中御法中分守御法
御法御法中御法中御法中御法中御法中御法中御法

慶安四年二月十四日

長五郎

同 同 同
毛子向 孫三郎 原五郎 小五郎

御奉行御

お好奥勅境覚

一 前代出羽奥勅境覚と福崎と田山願境覚と中福崎
が流の河並白川と中作曲田村と正しんじり長
者と中その中長者毎日并流中いり流白く
お流の河並白川と唱来い今も白深い流い
時お流の河並白川と福人、お流の河並白川と奥長南御領
福崎種藤より南東に流る水の中、其川、うらな紀有之
出羽と八目目守御法、奥長と籍出羽と八目と
唱中事

一 奥長と業ハ多能中、お好と業ハ多能出羽と
苗と多能奥長と多能福取とと奥勅業お好苗
と中唱中事

一 讀法と楠柏木之間の湯地は作留細紅員輔に先ず
注留のいじ能中達に通楠柏と入籠細紅員を
之に度し其上讀法とす而細紅員に成り方とす不
存い平賦後二年ハ注留然い楠柏と分高順こと
沙搦と注留の度い事

一 楠柏木の一方折法長平山麓と越前山指法伊高
順上莫たのいなりと注留あり山見と看在檢使
と云法為又中而湯地ハ入平而をより成安堂
及指いのいことあり

一 當四月長平法の内西と又方折難平津物益
作留表に流印のい彼中達に腐法湯地ハ注留
い平而高方入成水注法のり可い其思いの上

津物表に流り此礼は為り度のい此若く注留表
中一其のい湯地よりハ注留に入る方
印に其のい法不る其に津物表に流り此礼に其
少云儀のい法に中入平而高方山とる平而
い法に右と高平高順長是村に運法のい歴法と
注抄白と注及方山とる者お遺と注と注前
山見と看お合相系と注注法に命注の注留檢使
注注法にがし注注のい法に注注と注注にがし
及可い平目注注注注と注注と注注と注注
い其歴法とる山見檢使注と注注と注注と
又可い注注右と平長と折、剪注と注注注
双方山とる注注と注注と相系が合注合為とる

此世方國家指の世首古家拾神と云中上とい
は作越い首尾は所、今作との度は作越く不
能く拾神と前代も境と今般名通中と云
は所也い得のまは上押傳へ

延宝二年

四月廿三日

国守 泉氏

小堀 又右門外

小川 仁兵衛

中村 七多助

右拾神之儀、五月十二日以内、遠の地より、
飛札より致詰と論評拾神山、前代も社令と而も社
朽拾神石前神石汁四所と地方と者、は控のし、是達
所、は作越い百古、是拾神山、社令、般中、是、
之、作山、見、者、是、十日、拾神山、社令、上、長、

又五可ありと石と立置中作是、是、最前、他言拾神社、
拾神石有之といと世方と者、は控のし、は作越い、改、是、通
所、是、昔、中、は、何、便、は、と、相、見、得、一、即、上、百、古、物、と、
中、進、の、得、は、何、の、進、是、と、主、作、石、立、の、事、と、云、
い、方、と、者、石、と、は、拾、作、と、具、作、石、の、は、何、の、と、相、違、
る、可、致、世、方、石、立、置、可、わ、と、い、家、作、と、再、相、違、は、通、直、の、
之、作、石、立、置、の、と、云、は、は、作、越、知、る、か、拾、神、前、
代、も、社、令、何、も、之、中、に、有、い、と、云、言、中、世、方、石、立、可、
中、事、と、云、は、之、云、内、お、違、は、は、拾、神、社、石、立、置、の、
拾、神、石、の、其、作、石、と、は、方、便、と、云、成、言、と、い、者、
是、石、立、中、は、分、り、と、中、為、道、い、と、中、作、石、立、置、の、儀、論、
は、世、方、入、り、の、儀、は、公、儀、儀、可、中、上、と、一、四、日、中、と、い、

と斗は作違ふて四方使成理法也。三事之給負
可なることと四指の如方は組合不し候へば
一捨神をり合と越新細蔭中と同而之柳之枝伐いと作
越毎度法也。如中をり合と越新細蔭をり前
如中捨神と細とる而論地。今作論地。今柳常家
今と論不を言斗蔭をり百四の中角也。今柳蔭を

五月十七日

園平泉江門

小川仁吉

小指石又石の取
中村七三郎

長九郎一徹の如中伊織方上垣臣氏部合付
飛札と云と皆云はれ。其九日論地と云はれは西

と方丁文字地の邊而ら其許百姓三百人余論地
はと中其内四指人程在。陽而、萱前、糸い
地方百姓在萱前と進拂可中と形而、其洋山
見六人、糸前、四方百姓在。中作、何進、作、其
いし中、何、方、有、中、作、論地、入、其、洋、者、萱、前
中、何、の、と、中、何、門、何、と、其、論、地、何、と、何、中、と、何、
討、其、何、論、地、其、糸、立、論、地、と、萱、為、前、中、何、右、六、人、完
二、攝、一、萱、為、在、何、立、作、論、地、右、と、萱、前、在、論、地、
近、入、中、何、何、方、百、姓、在、何、何、山、と、六、人、内、上、長、九、郎
と、中、の、何、方、百、姓、人、立、而、切、論、中、論、地、萱、為、前
不、成、市、已、割、何、方、百、姓、論、地、中、何、立、作、長、九、郎、何
成、野、成、山、方、上、首、何、見、何、何、何、人、之、右、在、向、後

伊吟味成可引田村心山方是年象鳥の小山仁方
 小具伴中村七三割母呂河常如方、戸引而豊言一昨
 十九日幸伊常如七三割方、戸引去九日主伴百姓之
 法高願第^前外陽福舎し戸而く草前在戸而、世言
 百姓一部人程論也と踏也伊高依、萱苳在いよの
 打擲すとい伴山、るる有、由長九節を討法高依
 上上踏踏萱苳有、有程云々、打擲法高依何
 扱す言、い成山、中上と世方、大踏、由分玉相、り
 いよの力と扱、長九節、切、扱、中、打、扱、は合
 中、由、世、方、多、能、が、分、扱、と、是、高、合、扱、扱、と、扱、扱、と、
 扱、扱、と、扱、と、は、合、し、方、百、姓、扱、扱、扱、と、是、法、也、
 扱、扱、と、扱、と、い、七、三、割、常、如、幸、伊、心、山、方、是、年、象、鳥、の、

九日七三割常如幸伊心山方是年象鳥の小山仁方
 小具伴中村七三割母呂河常如方、戸引而豊言一昨
 十九日幸伊常如七三割方、戸引去九日主伴百姓之
 法高願第^前外陽福舎し戸而く草前在戸而、世言
 百姓一部人程論也と踏也伊高依、萱苳在いよの
 打擲すとい伴山、るる有、由長九節を討法高依
 上上踏踏萱苳有、有程云々、打擲法高依何
 扱す言、い成山、中上と世方、大踏、由分玉相、り
 いよの力と扱、長九節、切、扱、中、打、扱、は合
 中、由、世、方、多、能、が、分、扱、と、是、高、合、扱、扱、と、扱、扱、と、
 扱、扱、と、扱、と、は、合、し、方、百、姓、扱、扱、扱、と、是、法、也、
 扱、扱、と、扱、と、い、七、三、割、常、如、幸、伊、心、山、方、是、年、象、鳥、の、

沙公儀稱法住置之可為好知山見五人者
之論也之狼藉住長九節回於山中一另也吟味
可也即此之亦前處可也作也いり方々 沙公儀稱
法住之趣望相寺系以作也いり方々の亦也上押清也
延宝三年

九月五日

垣谷氏判

中野行織撰

人々甲

長平法之内古澤一也之抄儀符社田領人合附抄字
以飛御全破上之給之論也長平法之内古澤一也法一也法一也
三天也之生形也平常備しうのと平也所具經主
捨置沙願内之性還之江之也いり方々の亦也
立合い之頃日結園之形五洞の亦也いり方々の亦也

為其の初也所之上押清也

延宝四年

山田氏判

四月五日

前山氏判

湯浅新島氏判

小山氏判

中津山氏判

人々甲

南部秋田涉瀧地付秋田越通院文事
 作行義宣殿付秋田城之助及後目作子以秋田府
 地之助及付通院文事
 必考礼良久之得去意之涉席満年及初春之頃
 作名回之玄指回之北山系上相中司中上之存以處
 急用之存早之入河在年及涉瀧城系上之北山
 子百生好之信比内指回而唐角境之縁以作下之必考
 山之存及之越十又字相之中而境之角一以比内
 邊一若中作室比内存在古于百姓在可存以秋
 以涉下向者以秋武涉互府信人若昔年家作
 官洋四司事一校瀧下之可存上之押領云
 長治四年二月
 秋田城之助

義宣殿系書報

城之助及付通院文事

從義宣殿以涉瀧地内之唐角境目以秋瀧
 下之以内より西邊に作老之角の中之瀧山と越中の十
 文字より而境目之中心事に定る比内古于百姓も
 邊可存の推量を唐角中事に以て在田新地の中
 河方或境目比之と秋中分る在唐と存事云
 比之も存入に誠今も未と急用を果く在河の
 比の意の秋多存の在義田用事に印付くその邊に
 存方事一に存の切心之存中事一に
 と存存之存の義宣殿以秋前之儀新く存相に
 上押領云

任生之旨

信江内膳作

社城之助

元和四年七月十六日社田家宅梅津村より南部
伊家宅移越安房内海濱伊是石井伊賀後目上
か合而判之移圖之付取遠年形事

境自編地之新一着之間半云々入地之先年奉由
伊波身取鴻田山柏柳永住舊屋位古及此伊波身
中云云有長石之部相背と中唯今又移由此伊波
加藤助之取同伊織柳對面之人中此伊波身中
此伊波身之通之可此其内海角中者未此云云
石井伊賀身可中此云云と云云可方世取事也此在
右一述之此石井伊賀身非仍如件

元和四年七月十七日

内膳伊賀身
石井伊賀身

梅津村家

先年奉由伊波身取此伊生之内分鴻田山柏永住舊
屋位古及海角比内石井伊賀身分取古不可云云
多此伊波身之取在云々下之亂此中此伊波身今
取取之取伊波身右取伊波身取伊波身取伊波身
比、入云云取伊波身取伊波身取伊波身取伊波身
乃其一筆也此云云如件

七月廿一日

梅津村家

石井伊賀身
内膳伊賀身
梅津村家

先年長平法と比内者良道に我平毛馬内者
其作由一紙の上毎毎房方内信方、抑之事
名別と改改也先信信濃守方、陸奥軍一蒙印の
我平の系許可通の而房の信と長平法と先年
比内と者良道に我平毛馬内と者良平の蒙印の
之後曲事と公旨湯初公大功と之蒙中何江抑之候
之終と成候可中何由信法与中作良長道中合
度江程と信法与速、お方と之功と罰と之と良
義直抑、之節上之とお心可一良畏好、赤細之候
使者、中合、系不能高也此抑清云

七月十日

信江内信紙

楊庭安房書

從南部軍同五五以内、諸般和泉江、深津山
我平為良一抑と泥鐵中、中何通事

改年と竹慶河方同か、良一抑、乃沙江候府五年
一候斗と、乃良以内、伊願也也、山、世、内、何、之、者、高、年
中か、伊、終、之、入、多、乃、知、之、年、中、于、候、之、通
し、乃、信、公、之、取、之、と、深、津、上、之、良、之、地、伊、筒、本、証、也
之、乃、良、江、一、抑、と、長、海、之、と、也、入、於、入、公、何、中、之、
伊、礼、之、も、亦、知、る、御、之、家、亦、亦、亦、斗、亦、亦、入、公、之、信、
入、乃、良、又、也、合、也、作、之、早、之、入、之、乃、之、也、抑、清、云

上月九日

軍同五五

西之判

新及和泉守信

也宿所

あしし一十一のめり高秋年中一五秋中
の節し方中を省く入一節を中か毎中運上
二歳よりおめり結入なりわたり流り上京に極
るより結り中なる也

伊山に候へ付極々候へ可一と相令山用取
廻りもり定色非い山に清運と申作瑞と候山
中十日より百人令上志計百中又結入しなる
百人令事と申候も瑞の事運上家出た
今度、物事も極候と申し中へ極候と申す
考へ作申分、申候も秋申と申候も中若斗可
中上層長御所候より候山候も候も候も
候も候も候も候も候も候も候も候も候も
申合候も人申候も候も候も候も候も候も

是亦所序瑞口申候も瑞川日と申候も何作表裏中
候方候も可申候も申候も申候も申候も申候も
申候も申候も申候も申候も申候も申候も

卯月十二日

軍國五十五

主人

新度相家候
へん

林田河原南部河原の實

一赤法山に札立湯製沙を掛沼を志川ヶ崎と願儀、
河原、世中、沼白根と西に金山が来り河原と六ヶ
河南部の事

一三敷法深法南部内世中と志川ヶ崎と南者大池の黄
赤法山に札立湯製沙を掛沼を志川ヶ崎と願儀、
河原、世中、沼白根と西に金山が来り河原と六ヶ
河南部の事
一三敷法深法南部内世中と志川ヶ崎と南者大池の黄
赤法山に札立湯製沙を掛沼を志川ヶ崎と願儀、
河原、世中、沼白根と西に金山が来り河原と六ヶ
河南部の事
一三敷法深法南部内世中と志川ヶ崎と南者大池の黄
赤法山に札立湯製沙を掛沼を志川ヶ崎と願儀、
河原、世中、沼白根と西に金山が来り河原と六ヶ
河南部の事

と後し南沼より作は右に三敷深法橋柏本を大
池の南より中池と橋柏と後世中と沼白根と三敷深
法南部の内、世中、沼白根と中池と沼白根と事

一札立湯右より南沼札立湯直人西より河原の右と南と
沼白根と事、比沼代河利氏部か及河も中沼白根
者、往昔、とわ留竹竹し中池、河原、沼白根、沼白根
よりもの河原代河利氏部、中池、沼白根、沼白根と事
か合札立中作沼法札立湯し中作沼河利氏部及
ハ秋田城、船及之南北内とわわ、沼白根、沼白根、沼白根
又近年比沼代河利氏部、沼白根、沼白根、沼白根、沼白根
之者、沼白根、沼白根、沼白根、沼白根、沼白根、沼白根
地代も沼白根、沼白根、沼白根、沼白根、沼白根、沼白根

山中(か合信園)と云う一論地之内(中)に(中)を(中)入(中)
別備(中)書物(中)記(中)留(中)付(中)去(中)年(中)分(中)比(中)内(中)信(中)山(中)分(中)全(中)備(中)
備(中)三(中)年(中)お(中)し(中)は(中)指(中)口(中)中(中)得(中)る(中)事(中)論(中)議(中)と(中)云(中)中(中)事(中)
先年(中)切(中)文(中)丹(中)か(中)入(中)上(中)附(中)之(中)事(中)

一寛永十六年(中)切(中)文(中)丹(中)改(中)之(中)別(中)備(中)論(中)議(中)之(中)事(中)か(中)来(中)任(中)付(中)
使者(中)と(中)云(中)上(中)右(中)か(中)入(中)并(中)境(中)目(中)儀(中)山(中)檢(中)保(中)等(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)
中(中)に(中)作(中)成(中)之(中)言(中)山(中)右(中)新(中)備(中)田(中)出(中)巴(中)預(中)物(中)倉(中)石(中)見(中)寺(中)預(中)村(中)
尾(中)備(中)前(中)寺(中)預(中)右(中)沙(中)回(中)人(中)預(中)占(中)經(中)理(中)吏(中)方(中)上(中)沙(中)矣(中)見(中)下(中)
此(中)度(中)乃(中) 仰(中)公(中)儀(中)儀(中)上(中)信(中)許(中)証(中)儀(中)延(中)引(中)任(中)事(中)
一寛永十八年(中)上(中)沙(中)國(中)上(中)信(中)付(中)由(中)乃(中)儀(中)比(中)儀(中)備(中)論(中)議(中)
又(中)分(中)以(中)文(中)江(中)作(中)付(中)時(中)中(中)度(中)經(中)理(中)寺(中)預(中)中(中)一(中)源(中)經(中)吏(中)任(中)任(中)
上(中)心(中)中(中)上(中)作(中)任(中)事(中)

一沙檢使(中)所(中)以(中)遠(中)比(中)之(中)論(中)議(中)之(中)由(中)一(中)些(中)取(中)方(中)中(中)入(中)信(中)備(中)
由(中)予(中)多(中)信(中)源(中)寺(中)預(中)中(中)信(中)付(中)事(中)其(中)後(中)沙(中)等(中)策(中)以(中)成(中)公(中)信(中)方(中)
預(中)も(中)右(中)通(中)江(中)御(中)付(中)而(中)南(中)部(中)預(中)沙(中)等(中)策(中)中(中)入(中)任(中)事(中)
寺(中)建(中)之(中)基(中)之(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)年(中)之(中)補(中)任(中)之(中)儀(中)中(中)入(中)任(中)事(中)
お(中)之(中)れ(中)の(中)由(中)可(中)以(中)及(中)び(中)申(中)上(中)候(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)
度(中)に(中)信(中)元(中)之(中)儀(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)
遊(中)方(中)沙(中)檢(中)使(中)可(中)以(中)下(中)任(中)心(中)入(中)任(中)事(中)策(中)以(中)任(中)任(中)方(中)預(中)
此(中)度(中)の(中)事(中)處(中)中(中)信(中)許(中)証(中)儀(中)延(中)引(中)任(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)に(中)依(中)り(中)て(中)此(中)事(中)
任(中)事(中)

唐(中)每(中)四(中)年(中)一(中)年(中)
卯(中)三(中)月(中)十(中)四(中)日(中)
社(中)曰(中)右(中)之(中)書(中)計(中)多(中)無(中)社(中)用(中)目(中)每(中)半(中)之(中)石(中)膏(中)

世(中)度(中)の(中)助(中)
成(中)心(中)三(中)信(中)

慶安二^世年秋田檢使信五内苑之助菅谷隼人
清者七^尾ノ瀬谷隼人南郡檢使目時助更久米
田四^尾三^尾ノ里月長三^尾ノ里田五^尾三^尾ノ里
お合同答之事

一 八月廿三日由山ノ澤ノ中^所にお合作ノ修理更檢使
之旨山城守柳澤年寄藤ノ場地浸目也^ノ後^ノ成^ノ
ノ中^所由^中也^事

一 山城守柳澤檢使元ハ^ノ柳^ノハ^ノ在^ノ新^ノ給^ノ金^ノ所
ハ^ノ省^ノハ^ノ入^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノ下^ノ全^ノ所^ノ而^ノ
檢使目也^ノ得^ノル^ノ年^ノ寄^ノ在^ノ中^ノ也^ノ及^ノ又^ノ中^ノ也^ノ中^ノ也^ノ事

一 修理更檢使中^ノ也^ノ物^ノ倉^ノ石^ノ見^ノ寺^ノ柳^ノ津^ノ尾^ノ柳^ノ前^ノ寺^ノ柳
也^ノ百人^ノ柳^ノ在^ノ法^ノ々^ノ山^ノ寺^ノ柳^ノ并^ノ修理更^ノ檢^ノ使^ノ目^ノ也^ノ

一 中^ノ所^ノ由^ノ上^ノ相^ノ中^ノ檢^ノ使^ノ也^ノハ^ノ場^ノ地^ノ内^ノ見^ノル^ノ方^ノ檢^ノ使^ノ也^ノ
得^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノ
也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノ

一 山城守柳澤檢使元^ノ中^ノ也^ノ也^ノ是^ノ通^ノ也^ノ得^ノル^ノ也^ノ在^ノ中^ノ也^ノ
也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノ

一 修理更^ノ檢^ノ使^ノ中^ノ也^ノ也^ノ是^ノ通^ノ也^ノ得^ノル^ノ也^ノ在^ノ中^ノ也^ノ
也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノ

一 修理更檢使中^ノ也^ノ也^ノ是^ノ通^ノ也^ノ得^ノル^ノ也^ノ在^ノ中^ノ也^ノ
信濃守柳^ノ津^ノ右^ノ京^ノ更^ノ代^ノ双^ノ方^ノ之^ノ家^ノ丸^ノ柳^ノ庭^ノ也^ノ房^ノ也^ノ
石井伊賀^ノ丸^ノ内^ノ所^ノ伊^ノ豆^ノ也^ノ柳^ノ津^ノ也^ノ馬^ノ也^ノ得^ノル^ノ也^ノ在^ノ中^ノ也^ノ
也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノハ^ノ其^ノ所^ノ出^ノル^ノ也^ノ

沙論地は或南部に者撰に入得中易補おは江原公
南記之内は百姓成多る可く人多成新田も同キ
可中何事

一十二而流人別而可也其は麻打形記其高原村保助
以三人其人持可宛江下い世分より何其身代後を
法如持可江下宛別而可何葉信其と中者流人向
前山見得在法持可より員持可可中何事

一十二而給人を絶て其人宛是物其人宛氏記其山員百姓相
流為也其世者在吾版自分より交なり向後也公候
可中何事

一十二而三人に流人より中山寺助と中流人何中一是野代
持可沙用より其人持可江下い流人何と石江下事

一六流と南記沙流自是分竹前代也江原世方より伊豆
流も流代も長根太森山赤流山松林元湯袋河原
掛流流あり時と四流切也中より南記も流と伊豆も
流も流々流々太森記の右に一の平三の流原切橋
柏平長平切ありと時より世員より沙流流は成事

一流々流中と世方より流流とより一の平と中
流も世方より一の平と一の平と一の平と一の平と
流も世方より流あり時と中より一の平と一の平と
津和南の秋田江原自也中何事

一寛永十三年同十四年公龍若流と中より南部も原
と立家村六利田島流伊行流河原も馬内流
と中より一の平と中何事

一長水法之内云〇〇と申す南部の者小屋を
以て炭釜部と云ふ四五年燒中の參河而南部
に於て燒遠し申得る也之の旨流炭釜小屋あり
參河而高嶺中の地と又南部の炭釜部と又高嶺
の地を流る也之は是の地流の地と云ふ也事
内之事と申す事

一長水法之内小流法と申す南部の者小屋を
年燒ゆいといふ名年内流助と云ふ人其地を
入し流法と云ふ如前小屋部を人其地をいふ
河知り右小屋をいふ酒田中上流の老方より
南流瀬谷流法と云ふ流小流流法三人共之
しと盛園と云ふ老流と云ふこと同流法南部

者流法と云ふ事

一南流瀬谷流法と申す新田法と云ふ流法分者流地
道と云ふ新田法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ
新田法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ
作員田島と云ふ流法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ
新田法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ
本流と云ふ流法と云ふ流法と云ふ流法と云ふ
道の流法と云ふ事

一流法自白法村法と云ふ五分百七拾石六斗五升
六勺七撮石三斗五升右流法分同和系村法と云ふ
陣湯流法右三斗五升給入分新田法と云ふ五分百七拾石六
勺七撮石三斗五升右流法分同和系村法と云ふ五分百七拾石六

分回り三指五石廿斗を伴ひ合六斗成計指三石六斗七升
五合同者法村給人分新官回り成百計指四石計四升
九合石六斗村毎年年山廻り食回り計三百人計沙傳馬
七八指匹斗宛を々年中分也拾沙中へ向後法
性約之り々々成る指廿四入自率程事々々
新在與人存之給人新用也法新成字用新羅在
史程成法法先法下也六斗村之去皆成也
沙漏比之指肩足也下也即成也百姓も續也漏比
上南記之百姓標行入中漏上能いれ成り
南記法程も百姓も喜も村へ人存も多可成也
新田成法山園可一也成事一
一大隨院人傳助是法僧與人一人法法約宛法下也

之身代續之し加給可也下也白法河行兼源七六
隨助房孫七三人院人回沙山と及也也也給也中
是也法法可也下也廿三人也法法法約法下也兼分
六節法也人法法宛も直道中事一
一法程願美立之移也又分法是ハ夫立之移後自
二分法法法後自分法不存存也作也分法山也
法程也入中事一也法道計式三可事一也法中作
夫立之移沙後自分法法也也也也也也也也
屋切分所成也分年法程法後しハ麻合
法也也也法也也法也也法也也法也也法也也

寛文五年三月廿六日

山方兼三助
馬法守女

五中竹後目方々し六角と山古りの如く

山形毛馬内と云ふ小座破の地形は極南之流は極端古
人之古流遠西西又極端流東流は古より古河
に産人如き、有流の東の山古河は入る事何
と云ふ家主の古流は遠く先史と云ふ古流如
極道可流有古人と云ふ古流の極道極道

十月十二日

次田主信
戸村十五史

義玉

武部と捕物

書報

熊山飛北流破千沙と西流は小座破は、山古り小座破
人其人取石有通古流の中へ高山中流一なる中
に得る世中人得る三人系流よりけり其上小座
破と山古り山古り古流の中へ古流の流る事
有る事古流の中へ古流の流る事古流の中へ古流
作流は極端に古流は極端に古流は極端に古流は
古流の流る事古流の流る事古流の流る事古流の
古流の流る事古流の流る事古流の流る事古流の
古流の流る事古流の流る事古流の流る事古流の
古流の流る事古流の流る事古流の流る事古流の
古流の流る事古流の流る事古流の流る事古流の

正徳五年

佐竹武部信

戸村十文字

戸村十文字 三柱人衆 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字 戸村十文字

三月四日

佐竹武藏守

戸村十文字

佐竹武藏守

佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守 佐竹武藏守

三月二日

中野武藏守 佐竹武藏守

南郊外所拜靈符之山見之古久他口神
の宮橋邊云脚家來湯浅新方の上諸家来庇の
花御と云く作りてす作て下古清遠りと推えん
沙境目録より多事と常留りし事なりと云
之乃氣難食之乃併世方分多事と押定指さ
之乃言法境目録より山見之古久沙又兼た
の作り分より多事と常留りし事なりと云
上押定

六月十六日

次田伯耆
戸田十美

佐竹六郎

其法

南見十二所分法境目録より多事と常留りし事なりと云

民間物角小川部解由身の中古御方より古久河九分
亦事言のりり上云く其法境目録より多事と常留りし事なりと云

外御上其法境目録より多事と常留りし事なりと云
傷と云く法境目録より多事と常留りし事なりと云
茶用此氣上其法境目録より多事と常留りし事なりと云
沙一宿江為如くの中事より古久河九分
可法境目録より多事と常留りし事なりと云
古法境目録より多事と常留りし事なりと云
心より法境目録より多事と常留りし事なりと云

六月十七日

戸田十美

佐竹六郎

日功と申す一帯に於ては成主より一と云ふ

八月七日

仙行石見守

戸村十文字
多賀谷仙傳

富士首より仙達北山迄之り南に仙達自出瑞
地より新草杯南の仙達之南常丸中より仙達相
首より仙達之助仙達湯湯新方より仙達北
山に得在仙達地より南に仙達之者山より仙達
入之り仙達之者新方より仙達之者入之り仙達
戸村より仙達之者より仙達之者より仙達之者
仙達湯地へ入之り仙達之者より仙達之者より

山より仙達之者より仙達之者より仙達之者より仙達之者
仙達之者より仙達之者より仙達之者より仙達之者
仙達之者より仙達之者より仙達之者より仙達之者
仙達之者より仙達之者より仙達之者より仙達之者

十月十九日

仙達内記

志高

大越高直

秀玉

須田伯春

仙達

多賀谷仙傳

仙達

戸村十文字

義國

仙行六郎仙傳

仙達之助力仙達之者より仙達之者より仙達之者より仙達之者

六月廿七日

毛馬内及石馬
楠山五良
七戸集人
石井伊賀守
石島七良

他竹式部之備品

一長之節同如唐回娘ノ三人ニ七也唐回娘ノ式人合
人打五人怪更ノ事

寛永九年

六月廿五日

後赤主
青山五良
石島五良

中村角助

石島五良

先自方取長三節ノ事ハ切心ヲ懐クテ可成事也身取長三ノ
回妻ノ在三人ニ七妻ノ人ノ打五人獨血ノ怪更ノ
一層有ハハ切心ヲ懐クテ可成事也身取長三ノ
ノ事ハ切心ヲ懐クテ可成事也身取長三ノ
事ハ切心ヲ懐クテ可成事也

未

六月廿五日

米津五良

春守

他竹式部之備品

名

以飛脚江崎ノ事ハ願田子村ノ事ハ山伏不動院子
地以前ノ中之事ハ寛永九年ノ事ハ妻子ノ事ハ
今所ノ事ハ式部ノ事ハ楠山五良ノ事ハ石井
ノ事ハ石井伊賀守ノ事ハ石島七良ノ事ハ

此州なる所法乃々々か〜小笠原公定が奥郡
貫洞十和田城に居りしに神宮麻角大湯上人馬に
押し取らるる方僧代其に重利と名に忠とる成敗
可中知れ、之程事お坐し候。此中、東國神宮麻角
同娘在候事出候可程に御座候。

七月七日

石井伊賀守
楠山五九郎門
七戸集人正

佐藤源左衛門殿

萬聞書

一 佐竹伊先祖常務四守、阿常陸下総境高之山
と云ふ所傳也。其の父下総守古入古木守傳の首

下総境高之山を龍城と云ふ太平記にありし所傳也
是下総に相傳へし。而佐竹守信に内務助名程
此が身分を定流傳へ、其の身、其謂と実盛と諷
亦復別高実盛と幸國越前守有る所、須日御領出
此武勢の長井の庄と賜り、夜武、佐竹と云ふ事
之を佐竹の領と幸國とを離し、自準正統、此中
は幸國と幸國の事、此中、其上古款也

常陸守り物守の山に云ひし所

〜右款の中、自佐奥勢守の由に、此下総境高之山
自に、此中、事

一 寛文五年、後目、此、富田、山、方、主、此、助、是、此、事、也、此

武大版山人五人在是之能分及一歳為してと流境に置
為りて前々紅入血をいさる一版と申す

一曰工は流境、重助守其小山流境村^或上小山山人古
ま及ふ中流而小川幼解由是りて八世に流境南流論
地ししを是は社田領、亮と古来し三つ屋の屋敷と
三つ屋民部とて其位指いし流境と流境しとをいさる
はね、古来南北川流とて流境民部と申す。其下、其
民部と名付可し一版と申す。とて幼解由是りて此
一重助守其小山は流境を社田とて十三は流境地南流論
端越田細道に流境村多きとて民部及は流境といふ流境也
去進ハ之を流境武國院古来とて力柄とて流境は流境
ハ掛百姓系の流境の柄とて流境村事ハ流境は流境

流境川は河をさる流境川上は流境一五年内 川公儀とて流境
物とて流境とて一見分は流境流境とて流境といふ書付流境
流境は流境村事

一曰四月十九日大館山とて流境三流保流境の流境白
根とて流境とて流境地とて流境とて流境とて流境人
捕とて流境とて流境村とて指置大館山流境中流境
いと指置流境とて流境捕相とて流境とて流境とて
縄とて流境とて流境とて流境とて流境とて流境とて

一寛文六年三月流境川は流境とて小山流境大館山は流境
流境の山形とて通張貫彩色社官流境とて流境とて流境
御とて山形流境とて流境とて流境とて流境とて流境
流境社田とて流境とて流境とて流境とて流境とて流境

物語の因事

一 南の境に柏木古事ありて此と行ふるに海原ありて是
 次南の境に盗賊秋田監賊の如く合功に以て其高野
 二つが合監賊の如し惣領楠ノ松と柏ノ松と一は藤原
 三つが合に根を以て末に中橋と柏木と水辺に中上
 四つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 五つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 六つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作

一 重た山に合はれし其年折かほり中分りて一は藤原の如
 二つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 三つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 四つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 五つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 六つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作

一 重た山に合はれし其年折かほり中分りて一は藤原の如
 二つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 三つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 四つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 五つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作
 六つが合に根を以て新藤原の如し此と院に産作

一今度は作立の如き年山目毎に中上三品中下三品と云々
 新田藩に寄るは年々江戸に公儀様も双方の御用儀に
 浦上之五郎内子等入江島御用儀に御用儀に御用儀に
 各等相方山目等一切お入之者御用儀に御用儀に御用儀に
 願ひ相方御用儀に御用儀に御用儀に御用儀に御用儀に
 御用儀に御用儀に御用儀に御用儀に御用儀に御用儀に

新田藩後目録人

菅田庄和
 山方至助 一小山縫殿丞 一前小庄至
 惣人 尾山末女 一山田七左衛門

他竹石見家来大館領

垣谷氏御指南上二下分

嶺人頭 小川助解由良 一他竹石見 一岸江三左
 山内人 山内人 一石井江合 一泉江殿
 一岡半判左 一忠右助 一他竹石見嶺人 一岸内高左衛門
 嶺人 中山当助 一法庵形助 一大波源七 一天波助左
 一別所惣兵衛 一首原源助 一白法源七

他竹石見御指南山内人

大館山見之者御竹石見指南

五番 菅田庄和 一岸内高左衛門
 三番 菅田庄和 一岸内高左衛門
 二番 菅田庄和 一岸内高左衛門
 一番 菅田庄和 一岸内高左衛門
 七番 菅田庄和 一岸内高左衛門

松丹白
三白

九番

石井
高物
山
以
節

十番

石井
平
隨
号
左
門

